

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571300148		
法人名	社会福祉法人同朋福祉会		
事業所名	グループホーム ひかりの園		
所在地	山口県美祿市於福町下3267-1		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町受理日	平成23年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑には季節の野菜を植え、収穫の時期が来たら皆で収穫の楽しさを味わい、食卓にも収穫した食材を使った料理を出し、収穫の様子など会話の弾む中、その味覚を楽しんでいる。四季折々の自然現象を感じて頂くために、花見や梅干し作り、ケアハウス利用者や障害者等との交換会の七夕、ミニ運動会、みかん狩り、餅つき、雛祭りなどを楽しんでいる。地域の小学校・中学校の運動会出場観戦、自施設で敬老祝賀会を行うと共に利用者の状態により可能な範囲で地区教会にも参加している。また隣接のケアハウスでの行事や法人行事に参加し交流を図っている。9月の敬老会、3月の雛祭りにはご家族様もご案内し、一緒に楽しんで頂くにご家族同士の交流を推進している。当法人運営の診療所もあり、医療面の対応もすぐ取れるようになっていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用スペースや廊下が広くゆったりとしており、明るく居心地よく過ごせる環境づくりをして、利用者1人ひとりに寄り添った介護をされています。地域行事(夏祭り、敬老会など)や小・中学校の運動会への参加、地域の郵便局や法人の文化祭での利用者の作品展示、法人内の行事への地域の人の参加など、地域との関係が深まるように努めておられます。利用者や家族の意見を採り入れた介護計画の充実や、法人内の医療機関との連携やレクリエーションへの参加など、利用者は安心して暮らしを楽めるように支援されています。昼食は法人からの配食を利用されていますが、朝夕は事業所で食事づくりをされ、利用者もできることを一緒にしておられ、おやつや外出時の弁当と一緒に作ったり、外食をしたり、食事が楽しめるように工夫しておられます。外部研修への参加の機会の提供や、事業所内の勉強会は時間を見つけて繰り返し実施することで徹底して学べるよう、職員を育てる取り組みをされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
				○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者・施設長・職員で「優しい心、ふれ合う心、温かい心を持ち、明るく・楽しく・のんびりと、その人らしさを大切に、地域の中で馴染みの暮らしが継続できるよう支援する」を理念とし、日々のミーティング等の機会に共有を図り、実践に向け取り組んでいる。	「地域の中で生き生きと その人らしく ゆったりと 楽しく自由に ありのままに馴染みの暮らしが継続出よう暮らし」を理念に掲げ、ミーティングで確認しあって、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や外出時には地域の方に積極的に挨拶し利用者を変えて会話をするようにし、園について知って頂くよう努めている。地域行事の夏祭りや敬老会、小・中学校の運動会などに出かけて行き、交流に努めている。また法人内の行事に地域の方の参加がたくさんあり、交流できている。	散歩や外出時に地域の人と会話をしたり、地域行事(夏祭り、敬老会等)や小・中学校の運動会に参加するなど、地域の人々と交流している。利用者の作品を郵便局に展示し地域の人に見てもらったり、法人内の行事にも参加して、ボランティアとの交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加した時など、グループホームや認知症について話したり、認知症の家族を抱えていらっしゃる方の相談にのり、応えられる範囲で応えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の意義を理解した上で実施し、日々のケアの振り返り・見直しをしサービスの改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解して、全職員で評価に取り組んでいる。改善点について全員で検討し、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、サービス内容や行事、外部評価、自己評価の内容や評価結果を報告している。参加者からの意見・助言等を活かしサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センター職員、民生委員、消防署長、利用者代表、家族代表、病院長、職員代表を委員として利用者の状況や外部評価等を報告し意見交換している。新聞に掲載された施設災害について話し合い、災害訓練時に地域の人々の協力を得ることができるようになるなど事業所の運営に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センターの職員から、入居希望者の相談を受けたり、新入居者の相談をしたり積極的に交流をしている。	地域包括支援センターや市の担当者と連絡を取り合い、相談や情報交換をして協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中鍵を掛けないケアを実践しており、施設内勉強会を通して全職員がどのような行為が身体拘束に当たるか理解しており、身体拘束は絶対にしない、絶対にしてはいけないとの認識を持ち業務に携わっている。	マニュアルをもとに定期的に勉強会をして、身体拘束をしないケアについて話し合っ理解をし、高速や抑制のないケアに取り組んでいる。日々のミーティング時に、気になることは話し合い改善に努めている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を含め虐待について勉強会を実施し、どのようなことが虐待になり、虐待を見過ごしていないかを問い、虐待の防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を必要とされている利用者がないが、今後、研修会等積極的に参加していく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに関する取組や、起こり得るリスク、退居時の対応など、不安や疑問な点を聞きながら、不安や疑問が解消できるよう説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えができない利用者には日頃の様子から察知するよう努め、ご家族からは来訪時に意見や要望等を聞くようにしている。ホールに苦情受付箱を設置し意見が出しやすいようにしている。苦情相談の窓口や解決に向けての流れ等を掲示すると共に、入居時に説明し、連絡先を知らせている。	契約時に利用者・家族に相談や苦情の受付体制について説明している。訴えが出来ない利用者の意見は、日頃の様子から察知するよう努め、家族からは来訪時や運営推進会議において積極的に意見や要望を聞くよう努め運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、高齢者福祉サービス部会等で、職員の意見や要望を聞き反映させている。	職員会議や高齢者福祉サービス部会等で職員の意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、日々の労を労い各自が抱えている不安や悩みなどを解消し、少しでも軽減できるよう、また向上心を持って働けるよう助言している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、勤務経験や段階に応じて受けることができるよう配慮し、年2回の法人内研修会や報告会、施設内勉強会など職員が学ぶ機会を確保している。	職員の勤務経験や段階に応じて外部研修への参加の機会を提供している。年2回の法人内研修や事業所内の勉強会を通して職員が働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会や宇部・小野田ブロック協議会に加入し、同業者との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は可能な限りご本人にお会いして話を聞くようにし、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や、困っていることなど時間をかけて聞き、ご家族を受け止め信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は、他事業所のサービスに繋げるような対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の大先輩であるという考えを共通認識しており、戦争体験や、生活の知恵等を聞き教えて頂くこともあり、お互いに協力しあいながら支え合う関係が築けるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者や家族の思いに寄り添いながら、日々の様子を伝え、ご本人を支えていくための協力関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ行かれる方や、古い知人、自宅近所の方が訪ねてこられ、継続的な交流ができるよう、園を訪問しやすい声かけや雰囲気作りに努めている	車での外出時には利用者の出身地周辺を通ったり、利用者の知人の来訪や、年賀状を出したり、正月の帰省や外食、馴染みの美容院に行くなど、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状態や気分、感情を注意深く見守り、孤立させないように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやり取りや、入院又は他施設へ入所された場合は、様子を見に行き声をかけるようにしている。他施設へ移動された利用者のご家族が園に寄って一緒にお茶を飲み話して行かれる事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や生活歴の把握に努めると共に、日常の関わりの中で、希望や意向を把握するように心掛けている。また利用者の発言や行動は記録し、職員間で検討し共有している。	日々の介護の中で利用者の思いや希望を聞き、利用者の言動をケースダイアリーに記録して思いや意向の把握に努め、職員間で検討し共有している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が話されたことや、家族・知人の面会時にお話を聞いたりして情報を頂くようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人をしっかりと見つめ、状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者には日常の関わりの中で思いを聞き、ご家族には面会時などに意見や意向を聞き、それぞれの意向を反映しながら職員全体で意見交換やカンファレンスを通じて計画を作成している。基本的には6ヶ月での見直しだが、状態に変化が生じた場合は随時見直している。	利用者には日常の関わりの中で、家族には面会時に意見を聞き、主治医や協力医の意見を参考にして、全職員でカンファレンスを行い日常生活をよりよく暮らすために、一人ひとりの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。見直しは6か月を原則にしているが、状態の変化が生じた場合は随時見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態、変化は個々のケースダイアリーに記録し、食事摂取量、水分摂取量、排泄等についても日誌メモに記録、排便の配慮が必要な利用者は排便チェック表に記録把握している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への通院介助、選挙等の付き添い、外出時に利用者の出身地近辺を通るコースを計画する等、出来るだけ利用者やご家族の要望に添えるような支援を心掛けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるよう、警察や民生委員、消防署等の協力やアドバイスをいただいている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療や通院方法について確認し、かかりつけ医とホームの関係作りに努め、情報提供も適切に行い安心して医療が受けられるように支援している。緊急時の搬送先の希望も確認している。	かかりつけ医は利用者、家族の希望で決めっており、医療や通院方法について確認し、法人外のかかりつけ医にも情報提供を行い、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態を報告、相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して過ごせるように利用者の情報を医療機関に提供している。職員も見舞いに行き看護師より状態を聞くようにしている。家族とも連絡を取りながら早期退院に向けての支援をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学時や入居時に、重度化した場合の対応について方針を説明すると共に、状態に応じ、医師や看護師、家族と相談しながら、本人、家族が不安にならないよう最善を尽くし、次の支援に繋げていくことを職員全員で共有している。	利用者、家族の見学時や入居時に重度化した場合の対応についての方針を説明(ターミナルはしない等)している。状況に応じて利用者や家族、医師、看護師、職員と話し合い、方針を全職員で共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者ひとり一人に起こり得るリスクを明確にし、急変時の対応や事故発生時の応急手当、初期対応の勉強会や訓練を実施している。緊急時には法人の看護師の協力が得られるようになっている。	ヒヤリはっと報告をもとに利用者一人ひとりの予防・対策を話し合い事故防止に取り組んでいる。事故防止や初期対応についての研修に参加したり事業所勉強会で毎年、応急手当や初期対応の訓練を行っている。全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけているとはいえない。	・全ての職員に対する、応急手当や初期対応の定期的な実践訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力で、夜間想定を含めた防災訓練をケアハウスと合同で実施している。避難経路の確認や、消火器の取り扱い方、ビデオでの防災学習をしている。地域の方にも参加協力を頂いている。	年2回防災訓練(夜間想定を含)や、法人のケアハウスと合同で避難訓練を実施している。避難経路の確認、消火器の取り扱い方も訓練している。地域の住民の参加協力を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内勉強会やミーティングの中で、特に言葉遣いや態度に注意するよう話合っている。個人情報の取り扱いも細心の注意を払い保管している。	人格の尊重とプライバシー確保に関する研修への参加や、事業所の勉強会、ミーティングを通して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学び、言葉づかいなどに配慮して支援している。記録等の個人情報の取り扱いには注意している	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせた声かけや、分かりやすい説明を心がけ、本人ができる限り自分で決めることができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが「のんびりとその人らしさを大切に」の理念に沿い、ひとり一人のペースを大切に、主体性を大切にしながら支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされる方もあるし、行きつけの美容院に行かれる方もある。外出時には服を選んで着て頂く等、その人らしいお洒落ができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は配食を利用しているが、朝・夕食はホームで作っている。利用者の好みも入れ、畑で採れた野菜も使い、食事の準備、盛り付け等一緒にしながら楽しく食事をしている。	昼食は法人の配食であるが、朝夕は事業所で食事づくりをしている。配膳・下膳、茶碗拭きなど利用者のできることを一緒におこなっている。利用者の好みを取り入れた献立や、畑で採れた野菜も使って調理している。外食やみかん狩り、公園に行くときなどは利用者と一緒に弁当を作り持参して食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立をベースに食事を作っている。食事や水分が入らない方には、食事形態の工夫や医師、家族と相談して高カロリー飲料やお茶ゼリーを作る等して栄養摂取や水分確保できるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとり一人の力量に応じた声かけをし、支援している。歯ブラシ・コップは定期的に消毒、義歯は每晚洗浄剤に浸け清潔に管理している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックをすると共に、本人の様子を観てトイレ誘導している。	排泄チェックを活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて誘導し、トイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の取り入れや、身体を動かす機会を増やす等の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間は決まってはいるが、いつでも入浴することができる。入浴剤を使用したり、ゆず湯を行ったりしてゆっくりと入浴できるよう工夫しリラックスできるように支援している。利用者の状態や希望でシャワー浴や清拭の対応もしている。	曜日や時間(14時から16時)をきめているが、毎日入浴可能な体制をとっている。入浴剤を利用したり、ゆず湯や菖蒲を利用してゆっくりと入浴が楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を観ながら、できるだけ日中の活動を促し、生活リズムが整うよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個別の薬情報はすぐに確認できるようファイルしている。変更が合った場合は伝達ノートにも記入し全員が確認できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人のできることに配慮しながら、生け花、貼り絵、手芸、塗り絵、法話の会、3B体操、いきいき音楽等の参加を支援している。出来上がった作品は地区郵便局の協力を得て利用者作品展を開催させてもらっている。利用者も作品展に向けて張り合いを持って作品を作っている。	野菜作り、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、生け花、貼り絵、手芸、ぬり絵、体操、音楽鑑賞など楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。出来上がった作品は、郵便局で作品展を開催したり、法人内の文化祭に出展するなど利用者の励みになるなど、張り合いや喜びの合う日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩をしたり、公園でのお弁当、季節の花見、ドライブ、外食、みかん狩りなど、できるだけ戸外に出かけるようにしている。自宅の周りが観たいとの希望があれば外出の際に自宅前を通るようなコースを決める等工夫している。	散歩、季節ごとの花見、ドライブ、外食など、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などお店で買い物をするときは、事前にお金を渡し自分で選び、不安なく支払いができるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出せるよう支援している。電話をかけたり、手紙が書けるよう支援している		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンや事務室から全体を見守ることができるようになっている。お雛様や五月人形、季節の花を飾り、季節を感じ取っていただいている。利用者はソファやベンチで自由に過ごしている。	共用空間は広く明るくゆったりとしている。季節感のあるものや利用者の作品を飾り、利用者がソファや椅子でくつろぎ、居心地良く過ごせるよう支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを設置し、気の合った者同士でくつろぐことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族とよく話し合い、使い慣れたベッドやタンス等、馴染みのある物を持ってきて頂くようにしている。	使い慣れたタンス、家具、家族の写真、馴染みのあるものなどを持ち込んで、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手摺りや浴室、トイレ、廊下などの住環境が適しているか常に意識し、安全確保と自立への支援をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひかりの園

作成日: 平成 23年 5月 16日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故発生時の応急手当や初期対応に不安がある。	全ての職員が応急手当や初期対応の仕方をマスターし、不安なく対応できるようになる。	毎週末曜日の朝礼時または勉強会で事故発生時の初期対応及び応急手当の実践訓練を繰り返し行うことで、自信を持つことができるようになる。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。